

第7回 北陸銀行若手研究者助成金 研究実績報告書

氏名	所属・職名		助成金額
上田 長生	人間社会研究域歴史言語文化学系・准教授		900,000円
研究課題名	新出鍋屋文書を通じた近世金沢の蔵宿の基礎的研究		
研究の概要	<p>〔研究開始当初の背景, 研究の目的, 研究の方法等について記入〕</p> <p>加賀藩の年貢米保管・換金業者の蔵宿については、これまで農村部の事例しか知られておらず、城下町金沢ではその実態が全く不明であった。本研究は、近年新たに発見された鍋屋高畠家文書を北陸地域の近世史研究者と共同で調査し、分析することを通して、近世金沢の蔵宿の経営・家政を解明した。鍋屋文書は、これまで全くの未整理であったため、内灘町の所蔵者宅から金沢市立玉川図書館近世史料館に搬出し、共同研究者や学生とともに、一点一点の調書を作成し、最終的には冊子目録にまとめた。その上で、重要な史料は、撮影・活字化し、由緒・系譜と蔵宿に関わる切手類についての分析を進め、2本の単著論文を執筆して、目録とともに調査報告書をまとめた。</p>		
研究の成果	<p>本研究での調査によって、鍋屋文書は経営関係だけで2035点にのぼることが判明した。調査にあたっては、大学・博物館・史料館の研究者と共同で、文書整理を行い、文書1点ごとの調書を作成した。調書をもとに目録を作成し、鍋屋高畠家の由緒・系譜と蔵宿に関わる切手類について2本の単著論文を執筆し、調査報告書に掲載した。</p> <p>由緒・系譜関係では、元々、安江木町で材木商・大工を務めていた鍋屋が呉服・古手商などを営む中で、19世紀初頭に蔵宿に進出し、幕末期には、金沢で最大規模の蔵宿になった過程、17世紀の初代から九代までの当主・夫人・子女の履歴を詳細に解明することができた。また、八代当主は国学・歌学に秀で、金沢でも有名な存在であったことが実証でき、今後の鍋屋文書の継続調査の足がかりを得ることができた。</p> <p>蔵宿に関する切手類では、鍋屋文書に含まれる大量の米切手を分析し、その類型と機能を初めて明らかにした。蔵宿は、加賀藩給人(家臣)が藩より与えられた給地村々の年貢米を収納・保管するが、給人は年貢米のうちの一部を「払切手」で蔵宿に換金させ、残りを自家飯米として「渡切手」で引きだしていた。しかし、「渡切手」は次第に、収納年貢米以上の米・金の借用に用いられるようになった。つまり、米切手が借金・米の担保となっていたのである。こうした構造は、これまでの蔵宿や加賀藩家臣研究でも全く知られていなかった。これら新たに判明した構造は、加賀藩政史・流通経済史研究を深める貴重な手がかりとなった。</p>		
研究成果発表状況	<p>〔雑誌論文, 学会発表, 図書, 新聞掲載, 研究に関連して作成したWebページ等について記入〕</p> <p>調査・研究の成果として、単著論文「蔵宿鍋屋の由緒と系譜」「鍋屋文書における蔵宿関係史料の特徴」を含む『第七回北陸銀行若手研究者助成金調査報告書 鍋屋文書目録』を編集し、2016年3月に刊行した。</p>		
経費の執行状況	区 分	執行額(円)	備 考
	【物品費】 消耗品	230,050	A Fエンベロープ角形2号(古文書用2400枚), AFハードボード(常備品)保護紙, ドキュメントケース, トナーカートリッジ
	【人件費・謝金】 専門家謝金	156,000	のべ18人×26時間
	データ整理・調査補助	314,450	のべ34人×331時間
【その他】 目録兼報告書印刷代	199,500	300部, A4	